2025.5.7

雲　外　蒼　天

No. 3

今回は少し変わったテーマで、『ムダの勧め』について書いてみたい。

人間誰だってムダなことをするのは嫌だ。だから、「『ムダの勧め』なんてとんでもない。」と思うかもしれない。しかし、勉強の場合、いや日々の生活を送る中でも、何がムダで何がムダでないか決めるのは難しい。

ムダだと思っていたことが、後で生きてくることもある。

授業（特に数学）の時に先生が問題を解説して「さあ自分でやってみよう」といった時に、書き始めない生徒がいる。もちろんわからなくて書けない生徒もいる。間違っているかもしれないけど、懸命に取り組む生徒も多い。でもはなから書かない生徒もいる。理由を聞いてみると「間違っていれば先生がやった答えを書くとき、消さないといけないからムダじゃないですか。」と言う。このムダの中身は「時間、シャーペンの芯、消しゴム、労力」であろう。しかし、本当にムダなのであろうか？

勉強とは、正解に至らなくてもあれこれ、やってみることが本来の勉強というものではないかと思う。もちろん、一発で正解する場合もあろうし、何回やっても正解にたどり着かない場合もある。

教科書（問題集）の答えを完璧に暗記するという生徒がいる。先日朝ドラの「あんぱん」で主人公のやなせたかし（崇）さんは、数学が大の苦手で浪人中におじさんの家に暮らしていている。そんな崇さんにおじさんは「数学は暗記すればいい」と言い切る。また、映画『おもひでぽろぽろ』で、分数の割り算をひっくり返して掛けるということに納得がいかず、テストで 25 点を取ったタエ子に、姉のヤエ子は「かけ算はそのまま、わり算はひっくり返すって覚えればいいの。」と言う。ヤエ子に言わせれば、タエ子が「なんで分数の割り算はひっくり返すのか？」と考えること自体がムダに見えるのだろう。

確かに、数学でも必要最低限（例えば公式など）は暗記が必要だが、実際に力が付くのは、いろいろな問題をやってみて、いろいろ間違える(これがムダと考える人も多い)ことだ。その中で本当に計算や考え方の仕組みがわかり、できるようになる。仮にテストで見たことがない問題が出ても、普段の勉強で試行錯誤していれば、問題解決のための過程のいくつかはパスできるが、それをしていないと一から全部やってみないといけない。

ここにムダが生きてくる。

だからしっかりムダをしよう！